

エホバの証人被害者家族の会

# 会 報

事務局 353-0005 志木市幸町 3-20-8  
TEL 048(473)2564. 080(6514)0359

発行人 池田 達人 隔月15日発行

郵便番号 00580-4-3972 エホバの証人被害者家族の会

## 原理運動を憂慮する会

(1978年～81年)

### \*呼びかけ人

大学での反原理闘争は日夜激しい闘いを重ねていました。

そのころ茶本繁正氏から重大な会議があるので参加するようにとすすめられました。

それは早稲田大学の前総長・村井資長氏を中心とした学者、キリスト教はじめ宗教者、ジャーナリストらからなる「原理運動を憂慮する会」の発足会合でした。

会合は、78年10月13日、西早稲田のキリスト教会館でおこなわれ、以後父母の会はここを会場として集会するようになります。

呼びかけ人はそうそうたる人達です。

主な人を並べると早大前総長村井氏、上智大学長ヨゼフ・ビタウ氏、評論家青地氏、松浦総三氏、茶本繁正氏、謁元ルーテル神学大学長岸千年氏、NCC幹事東海林勤氏、東京神学校校長尾山令仁氏、矯風会会頭谷川和子氏、参議院議員市川房枝氏、歴史学者家永三郎氏、映画監督岡本愛彦氏、作家吉原公一郎氏、信州大隅谷三喜男氏、牧師森山諭氏、その方たちにまじって、私も父母の会会長として加わりました。

要旨次のような声明が発表されています。

私たちは思想、信条を異にするが統一協会、並びに勝共連合の活動に対し等しく憂慮し、目に余る反社会性を厳しく糾弾するためここに「原理運動を憂慮する会」を発足する。

キリスト教と自称する統一協会の原理運動はキリストを救い主と認めず、文鮮明をメシヤと仰ぐ欺瞞的性格を持つ。

また、押し売り、インチキ募金をおこないその用途を明確にせず、さらにこの運動で子弟を取られた家庭は、深刻な崩壊の危機に直面している。

信者も自殺、精神病、重病者となる実態が父母の会の証言で明らかで、私たちはこの運動を断じて許せない。

### \*村井先生ご夫妻

村井先生ご夫妻は統一協会の被害者でした。会のパンフレットに詳細が紹介されています。

村井先生が早大総長在任中にキャンパス内で事件が起きました。

「ゲバ学生リンチ殺人事件」として報道されました。被害者は20歳で文学部の学生、川口大三郎君。1972年11月でした。



総長は事件收拾に懸命でした。

それに付け込んだのが早大原理研新聞会で、大三郎君の母サトさんを担ぎ出し、村井氏宅へ同行。

そして「二度とこのような事件を起こさぬため、川口記念館を建てサトさんは生涯学生たちの面倒を見る館長とする」という要望書を出したのです。

村井先生は、当時は原理研を普通のサークルと信じておられ、彼らの要望に応じて個人の立場としてご自分の土地（伊豆韮山の別荘）を提供されました。

原理研は大々的に記念館建設募金をはじめます。

また村井夫人への要請は執拗で、夫人はとうとう根負けして「自宅でお話を聞きましょう」と承諾してしまいました。

すると原理研は村井氏の自宅に5～6人で押しかけ、黒板まで持ち込んで「原理講義」をします。

講師は全大学原理研の藤井会長。これが2か月も続き、その間監禁状態だったと言います。

一方原理研は、村井総長の名前を使って募金を起こしました。

先生は大学という理性の府で行われている不透明な募金活動に、日夜良心を苛まれ、理事会を立て、終始一貫良心的になろうと働かれました。

ご夫妻の純真な学生を思う愛と心を混乱させ、踏みにじったことはほんとう I ご許せません。

私は村井先生とは「原理運動を憂慮する会」結成後の交際でしたが鶏この問題でどれだけご夫妻が悩まれ苦しま

れたか、つぶさにお聞きし深くご同情申し上げます。

「秋田の母ちゃん統一協会と  
わたりあう」より  
全国原理運動被害者父母の会名誉会長  
本間てる子



・・・お知らせ・・・

残暑お見舞い申し上げます。最近インターネットで調べました～と、家族がエホバの証人になった方からの問い合わせが多くあります。

元JW20年のFSさんが、相談にのっております。ご遠慮なくお問い合わせ下さい。



ひとむぐらしの老人日記  
(森田謙一遺稿集)

×月×日 晴れ

いかなる人も、やがて意に無き別離に涙する時がくる。秋の暮れるに似て早いものは、心なき友の去就。

それは、大いなる禍根の報いでも交誼の消滅の悲哀にもあらず。

長らえる 命を何か 例とうべき  
今この時を 生まれしと思ひ